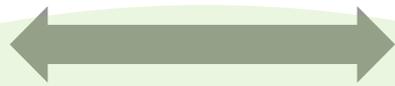


何ができるようになるか  
○各教科等で育成する資質・能力



何が身に付いたか  
○各教科等の学習評価

- 各教科における基礎・基本を身につけることができる。
- 主体的に学習したり、自分で考えて学んだり、行動したりできる。
- 友達や地域の人々とのかかわりから学び合う喜びを感じることができる。

- 既習の学びや経験をもとに、基礎基本を身につけることができた。
- 学習の見通しをもって、主体的に学習に取り組んだり考えたりする態度を身につけることができた。
- 生活や学習で友達や地域の人々と関りながら学び合う喜びを感じた。

**子ども達の実態**

- 新しい活動やゲストティーチャーとの出会いを素直に喜ぶ。
- 体験や活動にすぐ入り込める。
- 体験や活動に粘り強く取り組むことが難しい場面がある。

**子ども達の発達をどのように支援するか**  
○配慮を必要とする子どもへの指導

- 学年でチームを組み、指導に当たる。
- 児童理解を深め、一人ひとりに合った支援をする。

**目指す子ども達の姿**

- 学び合いの中で、自分の考えをもち、表現する。
- 友達とのつながりを大切にできる。
- 課題解決に向けて、様々な目的や方法があることを知る。

**何を学ぶか**  
○各教科等の教育課程の編成

- 既習をもとに、自分の思いや考えをもつ。
- 一年間の学習の見通しをもち、校外学習や体験学習、出前授業を単元に関連付けて設定し、教科横断的な学習を行う。
- 4年生とのなかよし活動で、協力して活動する。

**どのように学ぶか**  
○各教科等の授業の実施

- PDCA サイクルを通して、指導と評価の一体化を図る。
- 問題解決的な学習を取り入れる。
- 互いの考えを認め合える場面を学習活動の中に取り入れる。

**実施するために何が必要か** ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 学年で情報交換を行い、学習進度や指導の仕方などの確認。
- 単元によって家庭や地域と連携し、協力を仰ぐ。
- クラス単位だけでなく、同学年や異学年とのかかわる機会
- Y-P アセスメントの有効活用
- 地域材を生かした活動
- 懇談会等の内容の充実

**各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成**

- 学習活動を教科の枠を超え横断的に捉え、学んだことを生かす学習計画。
- 発達段階や個々の特性に応じた学習環境の調整。
- 自分の考えを自分の言葉で話せるなど、安心して学習できる場の設定。
- 汎用的な資質・能力の育成
- 体験的な学習の重視
- 情報活用能力の育成